

第9回 留萌川減災対策協議会
第9回 留萌川流域治水協議会
～議事概要～

留萌川における堤防の決壊や越水等に伴う氾濫に備え、河川管理者、北海道、留萌市等が連携して減災のための目標を共有し、ハード対策とソフト対策を一体的、計画的に推進し社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」を再構築するため、第9回留萌川減災対策協議会を開催しました。あわせて、気候変動による水災害リスクの増大に備えるため、河川・下水道管理者等が行う治水対策に加え、あらゆる関係者が協働して、流域全体で水害を軽減させるハード・ソフト一体の治水対策、「流域治水」を推進するため、第9回留萌川流域治水協議会を開催しました。今年度は効率的な協議会運営を図る観点から、減災対策協議会と流域治水協議会を同時に開催し、取組状況のフォローアップ等を実施するとともに、意見交換を行いました。

日時：令和6年2月21日 13:30～15:00

開催場所：留萌開発建設部1階会議室（Web会議併用）

出席者：留萌開発建設部、留萌振興局、留萌市、
留萌消防組合、旭川地方気象台、留萌南部森林管理署、
陸上自衛隊第26普通科連隊、留萌警察署

報告があった取組

- ・河道掘削、樹木伐採等の河道整備
- ・排水施設の整備、森林整備
- ・避難行動要支援者の名簿を作成し、関係機関に情報共有
- ・避難場所等の整備に向けた協議を実施
- ・防災訓練、防災教育の実施
- ・緊急割込み放送の訓練を実施
- ・洪水ハザードマップ、避難情報等の周知
- ・水防資機材の充実
- ・ホームページ等による水防意識の啓発を実施
- ・河川環境学習

など



会議の開催状況

各構成員のコメント



構成員：減災対策、流域治水

留萌開発建設部長

- 近年、全国的にこれまで経験したことのないような大雨によって甚大な被害が発生しています。河川管理者だけで対応するのではなく、流域に関わるあらゆる関係者と連携して治水対策を推進し、被害を少しでも軽減していきたいと考えています。
- 減災対策協議会と流域治水協議会は、地域の皆様の安心・安全な暮らしのため、いざ災害のときに命を守れる行動を取るという目的は同じですので、相互に連携し取組を推進していければと考えています。



構成員：減災対策、流域治水

留萌振興局長
代理出席 副局長

- 気候変動の影響により、2040年頃には降雨量が約1.1倍、洪水発生頻度は約2倍になると試算され、対策の量、質、手段の強化が必要と思っています。
- 全国的に豪雨災害が頻発・激甚化する中、北海道、留萌管内においても、ここ数年で1時間降雨量や24時間降雨量が観測史上1位となる雨量が観測されている状況です。それを踏まえて、留萌川流域においても水災害の軽減に向けた取組を進化させていくことが非常に重要と考えています。

各構成員のコメント



構成員：減災対策、流域治水

留萌市長

- ・留萌川の河川整備、大和田遊水地、留萌ダムが整備されたことで水害は大きく減少しました。改めて感謝申し上げたいと思います。
- ・4,5年前に避難要支援者が山間部にいて、避難指示発令時に2割程しか避難されませんでした。高齢者の避難を第一に考えていかなければならないと思っています。
- ・市としては、雨量に応じて災害対策本部を設置し、関係機関の皆様と情報共有することが一番大事だと思っています。



構成員：減災対策

留萌消防組合 消防長

- ・4,5年前の水災害のときに、消防隊として住民の皆様避難のお願いをして回った経験がありますが、なかなかお話を聞いていただけなく、「長年住んでいて氾濫がない、大丈夫だ」というお話が多くありました。水災害が心配されるような地域住民の皆様には、日頃からのPRが大切だと痛感しました。
- ・消防としては、引き続き、各種訓練に参加させていただきながら、関係機関の皆様と連携を強化して、いざとなった場合の活動に備えてまいりたいと考えています。



構成員：減災対策、流域治水

旭川地方気象台長

- ・大きな台風や併せて前線が停滞するような予想時には、早い段階で様々な形で情報提供するようにしていますが、2,3日前段階での量的・面的予測は非常に難しく、半日前程度でないと確度が高まらない時もあります。線状降水帯は予測でも30分前位で発表します。
- ・今後も関係機関と常に情報共有しながら対応を進めていきたいと思っています。

各構成員のコメント



構成員：流域治水

留萌南部森林管理署長

- ・奥地にある国有林では、森林整備を行い、水源の涵養や崩壊防備等に努めています。
- ・今年度、留萌管内は雪がとて多かったため、これから雪解け、融雪が進んで崩壊が起きるということもあるかと思っています。日頃から、台風や大雨の際には林内の巡視を徹底していますが、融雪時でも巡視を徹底して、崩壊などがあれば、その処置に対応していきたいと思っています。



構成員：減災対策

第26普通科連隊長
代理出席 副連隊長

- ・令和2年度の球磨川の氾濫のときに熊本で指揮所勤務をした経験から、ヘリやドローンの運用が必要で、空域も含めた統制調整が必要と思っています。
- ・公助を行う関係機関としては、統制調整を的確に行うことが重要であり、孤立住民の高齢者の方の被害の状況等も含めて考えていく必要があると思っています。



構成員：減災対策

北海道警察 留萌警察署長

- ・災害は、いつ、どこで、どんな形で発生するか分からない。実際に発災してから慌てるのではなく、平時から関係機関の皆さんと共通認識を持つこと、また情報交換を、真の意味で連携ができるような関係づくりというのが本当に大事と考えています。
- ・今後も関係機関の皆様と協働しながら地域住民の皆さんへ周知・啓発活動等を行うことが大事だと思っています。